

Ryukoku University



Faculty of Law

法政アクティブリサーチ成果報告書
(2021年後期～2022年前期)

はじめに

2017年度に設置された「法政アクティブリサーチ」は、今期で第5期（2021年度後期～2022年度前期）を迎え、これまでになく、多様なテーマでさまざまな団体へのヒアリング調査が行われた。本報告書はその活動内容とその成果を報告するものである。

「法政アクティブリサーチ」は、学生が主体となって、法制度や政治・行政の実態に関する調査研究を行ふもので、通常の授業における座学とは異なり、大学の外へ出て、社会・制度の実態を、ヒアリング調査を通じて知ること、学生の「学び」や「成長」を促すことを目的とする。それゆえ、本科目は、本学法学部の科目の中でも他にない特徴を有する科目となっている。

本科目では、学生ら自らが（もちろん教員が適宜アドバイスするが）で、具体的なテーマ（大きなテーマは教員が設定する）やヒアリング調査先の選定、調査日程の計画、質問内容の精査・決定、ヒアリング調査の実施、そのまとめと考察などを行う。通常の講義科目では、「学び」がどうしても受け身になりがちで、受け身の「学び」に慣れた学生が、調査のデザインから最終的な報告書の作成までを自分たちの力で行えるのかについて、一抹の不安があった。しかし、そのような不安を杞憂に終わった。本報告書を一読していただければわかると思うが、学生たちは、見事に報告書を完成させている。読者のみなさんにはぜひ、その目で本報告書に目を通していただき、学生らの活動及びその成果を感じ取っていただきたい。

第5期の活動も前期に続き、コロナ禍の影響でヒアリング調査に一定の制限がかかる中、行われたものである。それゆえ、ヒアリング調査には、一定の制約や予想外の出来事が随所にあったと思うが、学生らは、そのようなアクシデントや困難を乗り越え、本報告書を完成させた。その過程では、発生した問題に戸惑いながらも、それになんとか対処し、解決するため、クラスや班で、話し合い、協力して問題解決にあたったことと思われる。このようなプロセスそのものもまた、「学び」の重要な過程である。読者のみなさんは、学生らの報告書完成に至るまでのさまざまなハードルとその乗り越えの経験、そしてこれらのことが学生らの成長の過程であることにも思いを馳せながら一読いただくと、本報告書のまた違う良さを体感していただけるのではないと思う。

本報告書が完成に至るまでには、さまざまな方々や団体のご協力があった。ヒアリング調査を快く引きけていただいた団体の皆様、学生スタッフ、事務のみなさんの協力なくして本報告書の完成はあり得なかった。その意味で、本報告書にご協力いただいたすべての皆さんによって作成されたものである。本報告書にご協力いただいた皆さんに、担当教員を代表して心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

担当教員を代表して

玄 守道

～総目次～

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ 玄 守道
法政アクティブリサーチ・武井クラスについて	・ ・ ・ ・ ・ 武井 寛
「歴史」と社会、新型コロナウイルスとの関わり、「食」をめぐって	
—「法政アクティブリサーチ」畠山クラス 2022 年度の活動を振り返って—	・ ・ ・ ・ ・ 畠山 亮
「共に生きる社会を構想する」—今期の活動を振り返って	・ ・ ・ ・ ・ 玄 守道
法政アクティブリサーチ・堀クラスの取り組み	・ ・ ・ ・ ・ 堀 清史
第 5 期(2021 年度後期～2022 年度前期) 法政アクティブリサーチの記録	・ ・ ・ ・ ・ 沖村 春佳、橋田 奈知(AR スタッフ)
各クラスの調査報告書	・ ・ ・ ・ ・ 武井クラス、畠山クラス、玄クラス、堀クラス
おわりに	・ ・ ・ ・ ・ 武井 寛

武井クラス

身の回りに存在するものとその社会的意味を考える

第一部 日本における「SDGs」の取り組みと実態～持続可能な社会を目指して～	・ ・ ・ ・ ・ p16
第二部 メディア・ユニバーサルデザインの現状と課題	・ ・ ・ ・ ・ p50

畠山クラス

史跡と食とまち

～コロナ禍を超えてゆけ！～

はじめに	・ ・ ・ ・ ・ p83
第一章 GI 制度における「八丁味噌」問題について	・ ・ ・ ・ ・ p85
第二章 伝統と創造～時代の変遷・新しい価値との併合のために～	・ ・ ・ ・ ・ p101
第三章 伝統農業におけるスマート農業について	・ ・ ・ ・ ・ p115
第四章 観光地の食べ歩きとごみ箱の設置	・ ・ ・ ・ ・ p130
おわりに	・ ・ ・ ・ ・ p144

玄クラス
共に生きる社会を構想する

第一章	ひとり親家庭についての報告	p148
第二章	障がいを持つ人の「障がい者雇用枠」での就労における課題の認識と今後の展望について	p176

堀クラス
手続・プロセスから考える

はじめに	p192
第一章 メガソーラーと地元住民	p193
第二章 日本における子の面会交流と子の利益	p209
第三章 誹謗中傷と私たち	p219
おわりに	p228